



(2000円) 特 許 願 (発明)

昭和48年9月26日

特許庁長官 斎藤 英 雄 殿

1. 発明の名称

電気カミソリ用ブリシエーピング化粧料の製法

2. 特許請求の範囲に記載された発明の数

2

3. 発明者

住 所 ヤマトシオンヤ
大和市上草柳105番地の3
氏 名 ノ ママ アキラ
堀野 秋 草 (ほか1名)

4. 特許出願人

住 所 シンガポール
同泉同市衛生町648
氏 名 カイコ
水一化工業株式会社

5. 代理人

住 所 東京都中央区京橋3丁目4番地 竹内ビル (電話561-2760)
氏 名 (5614) 幸田士 野 沢 睦 秋

6. 添附書類の目録

(1) 明 細 書 1通
(2) 図 面 1通
(3) 特 許 料 1通
(4) 願 書 1通

(通称)



141 44 44

① 日本国特許庁

公開特許公報

① 特開昭 50-58242

③ 公開日 昭50.(1975) 5.21

② 特願昭 48-108660

② 出願日 昭48.(1973) 9.26

審査請求 有 (全5頁)

庁内整理番号

6617 44

⑤ 日本分類

31 C0

⑤ Int. Cl?

A61K 7/15

明 細 書

1. 発明の名称

電気カミソリ用ブリシエーピング化粧料の製法

2. 特許請求の範囲

1. 融点が体温附近の粘結性基剤と潤滑性粉末基剤と他の化粧料助剤とを混合することを特徴とする粉末状の電気カミソリ用ブリシエーピング化粧料の製法。

2. 溶融状態にある融点が体温附近の粘結性基剤と潤滑性粉末基剤と他の化粧料助剤とを混合し、冷却して後成形することを特徴とする固形状の電気カミソリ用ブリシエーピング化粧料の製法。

3. 発明の詳細な説明

本発明は改良された電気カミソリ用ブリシエーピング化粧料の製法に関するもので、剃り心地が快適であり、電気カミソリの切れ味を向上

させると共に良好な切れ味を持続せしめ、しかも剃り終った後容易に払拭し得るものである。

現在電気カミソリ用としてブリシエーピングローション、タルカムパウダー、マイカパウダー添加物等が知られているが、ローション類は剃り終った後の皮膚刺激があり発赤を生じたり、油分によるぬめりがあり、爽快感が得にくい欠点があり、パウダー類は皮膚の分泌物や水分を吸着する利点はあるが、塗着性が悪く使用中に剥離して衣服などに落下して汚損せしめ或いはマイカパウダーが皮膚に密着し、払拭しにくく、白っぽく残存する等の欠点があったが、本発明者は種々実験研究の結果このような欠点のない本発明を得たのである。

本発明に於ける融点が体温附近即ち30~43℃程度である粘結性基剤としてはポリステルセテ

レート、低級脂肪酸エステル、セチルラクテート、トリラウリン酸グリセリンエステル、デカノイックミリステート、エチレングリコールジステアレート、エチレングリコールデカノイックレート、ココアバター、ミリナルミリステート、アセチル化ソルビタンパルミテート、アセチル化グリセリンモノパルミテート、ステアリン酸エチルエステル等であり、これらの1種又は2種以上を混合して使用するものであり、添加量は1~10重量%程度である。^{3字加入}
粒状の
球形、多面体状の
 剤としては粒径10~100 μ 程度で潤滑性及び吸着性が良好で軟質なものであり、多孔性ジビニルベンゼンビナールポリマー、タルク、炭酸カルシウム、炭酸マグネシウム、ポリエチレン粉末、ポリプロピレン粉末、ポリテトラフルオロエチレン粉末、ポリ塩化ビニル粉末、シリカ

シリカパウダーは吸着性、潤滑性の良好なものである。マイクロクリスタリンセルロースは吸着性が良好であると共に賦形補助剤ともなるものである。

上記の基剤に添加される他の化粧料助剤としてはグリチルレチン酸ジカルシウム、グリチルレチン酸メチルエステル等の抗炎症剤、メントール、カンファー等の清涼剤、オキシフェニルエチルアミン、ジヒドロキシフェニルメチルエーテル、イミダゾリン誘導体、塩化アルミニウム等の起毛剤、香料、着色料等であり、これらを適宜混合使用するものであり、これらの添加量は1~5重量%程度である。

本発明は融点が高融点である粘結性基剤1~10重量%と潤滑性粉末基剤98~85重量%と他の化粧料助剤1~5重量%とを十分に混合攪拌し

パウダー、マイクロクリスタリンセルロース、ナイロン粉末、デンプン粉末、第二リン酸カルシウムアパタイト粉末等の粉末であり、これらを適宜の割合で混合使用するものである。斯る^{3字加入}
粒状の
 潤滑性粉末の添加量は98~85重量%程度である。多孔性ジビニルベンゼンビナールポリマーは粒径20~100 μ 程度のものがよく透明であり、着色が容易で潤滑性が大きいものである。タルク、炭酸カルシウム、炭酸マグネシウムは粒径10~100 μ 程度のものがよく粒径が10 μ 以下であると皮膚に白さが残り、透明性が劣り、粒径が100 μ 以上となると皮膚への附着性が劣る。ポリエチレン粉末、ポリプロピレン粉末、ポリテトラフルオロエチレン粉末、ポリ塩化ビニル粉末は粒径10~100 μ 程度のものがよく、親水性、親油性、潤滑性の良好なものである。

併しアトマイザー処理して後60~100メッシュの篩を通して粉末状製品とするか、前記の粘結性基剤1~10重量%と^{3字加入}
粒状の
 潤滑性粉末基剤98~85重量%とを十分に混合攪拌しアトマイザー処理し、次で他の化粧料助剤1~5重量%を添加して混合攪拌しアトマイザー処理して後60~100メッシュの篩を通して粉末状製品とするか、前記の粘結性基剤1~10重量%と^{3字加入}
粒状の
 潤滑性粉末基剤98~85重量%とを十分に混合攪拌しアトマイザー処理後混合攪拌しながら50℃に加熱し、粘結性基剤を溶解^{3字加入}
粒状の
 して潤滑性粉末基剤に吸着せしめ、次で適温にまで冷却し、他の化粧料助剤1~5重量%を添加し十分に混合攪拌し、アトマイザー処理して後60~100メッシュの篩を通して粉末状製品とするものであり、前記の粘結性基剤2~10重量%と^{3字加入}
粒状の
 潤滑性粉末基剤98~85重量%とを十分に

混合攪拌しアトマイザー処理後混合攪拌しながら40〜50℃に加熱し粘結性基剤を溶解して潤滑性粉末基剤に吸着せしめ、次で室温まで冷却し、他の化粧料助剤1〜5重量部を添加し、充分に混合攪拌しアトマイザー処理して後機械プレスしてスナック状の固形製品とするものである。

本発明による製品を男性100名に20日間使用した結果の塗布時のスナックの感触：項目A、ひげ、皮膚への付着性：項目B、剃り易さ：項目C、剃った後の皮膚の滑さ：項目D、剃った後の透明性：項目E、総合評価：項目Fは次表の通りである。

| 実施例 | | 項 目 | | | | | |
|-------------|---|-----|----|----|----|----|----|
| | | A | B | C | D | E | F |
| 1 | X | / | 80 | 82 | 88 | 89 | 84 |
| | Y | | 12 | 6 | 5 | 8 | 9 |
| | Z | | 8 | 12 | 7 | 3 | 7 |
| 2 | X | 63 | 80 | 81 | 85 | 89 | 82 |
| | Y | 31 | 13 | 4 | 2 | 8 | 11 |
| | Z | 6 | 7 | 15 | 13 | 31 | 7 |
| 3 | X | 57 | 80 | 81 | 81 | 90 | 79 |
| | Y | 35 | 11 | 7 | 9 | 5 | 13 |
| | Z | 8 | 9 | 12 | 10 | 5 | 8 |
| 市 販 品 | X | 51 | 45 | 62 | 14 | 12 | 15 |
| | Y | 31 | 24 | 25 | 21 | 20 | 13 |
| | Z | 18 | 31 | 13 | 65 | 68 | 72 |

但、Xは非常に良い、Yはかなり良い、Zは普通

上記の結果よりしてひげ、皮膚への付着性、

剃った後の皮膚の滑かさ、透明性が極めてよく、しかも切れ味を向上し良好な切れ味を持続させることが明らかである。

本発明によるブリシエーピング化粧料は融点が体温附近である粘結性基剤の配合によって潤滑性が良好にしてひげに付着している皮膚の分泌物を良好に吸着する軟質の潤滑性粉末基剤と溶解或いは軟化した粘結性基剤とがひげに付着し、カミソリの刃の磨耗を軽減し、刃の損傷を防止し、カミソリの磨動運動を円滑迅速にすると共にひげを柔らかくその切断を容易にし、剃り心地を快適となし、カミソリの切れ味を向上し、良好な切れ味を持続し、剃り後った後に付着物を容易に拭拭し得るものである。

次に本発明の実施例を示す。配合割合は重量部で示す。

実施例 1 粉末状製品

| | | |
|---|------------------|-----|
| A | タルタ | 79 |
| | トリラウリン酸グリセリンエステル | 6 |
| | マイクロクリスタリンセルロース | 3 |
| | シムタペウダー | 6 |
| | ナイロン粉末 | 5 |
| B | メントール | 0.1 |
| | グリチルレチン酸メチルエステル | 0.1 |
| | 香料 | 0.5 |
| | オキシフェニルエチルアミン | 0.3 |

990gのAを容量9L、2.2KWのミキサーで5分間混合攪拌し、アトマイザー処理する。次で加熱冷却ミキサーで50℃に加熱し10分間混合攪拌し、溶解したトリラウリン酸グリセリンエステルと共存する潤滑性粉末基剤に付着せしめて後30℃まで混合攪拌しながら冷却し10gのBを

2g
加入

添加し2分間混合攪拌し、アトマイザー処理した後100メッシュの篩を通して粉末状製品とする。

実施例 2 スナック状製品

| | | |
|---|------------------|-----|
| A | タルタ | 78 |
| | ココアバター | 4 |
| | マイクロクリスタリンセルロース | 5 |
| | シルクパウダー | 6 |
| | ジビニルベンゼンビニールポリマー | 6 |
| B | メントール | 0.1 |
| | グリチルレチン酸メチルエステル | 0.1 |
| | 香料 | 0.5 |
| | オキシフェニルメチルアミン | 0.3 |

990gのAを容量9L、22KWのミキサーで5分間混合攪拌し、アトマイザー処理する。次で加熱冷却ミキサーで50℃に加熱し10分間混合攪

| | | |
|---|-----------------|-----|
| B | メントール | 0.1 |
| | グリチルレチン酸メチルエステル | 0.1 |
| | 香料 | 0.5 |
| | オキシフェニルメチルアミン | 0.3 |

990gのAを容量9L、22KWのミキサーで5分間混合攪拌し、アトマイザー処理をする。次で加熱冷却ミキサーで50℃に加熱し、10分間混合攪拌して溶解したデカノイックミリスチート、^{粒状の}及びミリスチルセテレート^{3字加入}を共存する調性粉末基剤に付着せしめて後、30℃まで混合攪拌しながら冷却し、次で10gのBを添加し更に、2分間攪拌して後、アトマイザー処理を行った後機械プレスしてスナック状製品とするものである。

出願人 ポーラ化成工業株式会社

代理人 野 澤 誠 秋

併して溶解したココアバターを共存する調性粉末基剤に付着せしめて後30℃まで混合攪拌しながら冷却し、次で10gのBを添加し更に2分間混合攪拌して後アトマイザー処理を行った後、機械プレスしてスナック状製品とするものである。

このようにして得たスナック状製品は硬度が高く割れ、欠けを防止し、外面は鏡面光沢を有し、商品価値を高め得るものである。

実施例 3 スナック状製品

| | | |
|---|-----------------|----|
| A | タルタ | 75 |
| | デカノイックミリスチート | 2 |
| | ミリスチルセテレート | 3 |
| | マイクロクリスタリンセルロース | 5 |
| | シルクパウダー | 6 |
| | アバタイト粉末 | 8 |

7.前記以外の発明者

住 所 フォート・ランド・ビルディング 7-20-18
横浜市鶴田海岸

氏 名 加 藤 雅 二

訂 正 書

手 続 補 正 書 (11 95)

昭和48年10月28日

特許庁長官 高 橋 英 雄 殿

1. 事件の表示 昭和48年特許願第 108660 号
2. 発明の名称 電気たすり用アクリル樹脂に粘着剤の配合
3. 補正をする者
事件との関係 特許出願人
氏名(名称) ポーラ化成工業株式会社
4. 代 理 人
住 所 東京都中央区京橋3の5竹岡ビル
氏 名 (5614) 弁護士 野 澤 隆 秋
5. 補正命令の日付 昭和 年 月 日
(提出日 昭和 年 月 日)
6. 補正により増加する発明の数
7. 補正の対象 1. 発明の詳細な説明の項
2. 要 件 状
8. 補正の内容

添付の訂正書及び要件状

特 許 庁
48.10.19

明細書を下記の通り訂正する。

1. 第3頁第5行「ミリチルミリステスト」を「ミリスチルミリステスト」とする。
2. 第3頁第11行「潤滑性」の次に「、付着性」を挿入する。
3. 第4頁第3行「シウムアバタイト」を「シウム、アバタイト」とする。
4. 第4頁第15行「ニル粉末」の次に「、ナイロン粉末」を挿入する。
5. 第5頁第1行「吸湿性、」の次に「吸油性、」を挿入する。
6. 第6頁第11行、第7頁第3行「基剤に」の次に「夫々「付着または」を挿入する。
7. 第10頁第15行、第12頁第2行、第13頁第10行

「付着」の次に夫々「または吸着」を挿入する。

出願人 ポーラ化成工業株式会社

代理人 野 澤 隆 秋